

平成29年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自己と他者を大切にできる豊かな感性を持った生徒を育成し、確かな学力を身につけ、自己実現・社会貢献できる人材を育む学校

- 1 豊かな人間関係が形成できる力を持つ人権感覚に富んだ生徒を育成する
- 2 学ぶ楽しさを実感することで基礎学力を有した「社会を生き抜く力」をそだてる
- 3 「働くことの意欲」を醸成し、自己の進路を主体的に選択できる力を育てる

2 中期的目標

- 1 安全で安心な学校生活を送れる学校づくり（豊かな人間関係が形成できる力を持つ人権感覚に富んだ生徒を育成する）
 - (1) 学校が生徒相互にとって安全で安心して生活できる場と感ずることのできるように、人間関係の育成に努める
 - ア ホームルームの時間や総合的な学習の時間などを活用し、基本的なコミュニケーションの取り方を入学後の早い時期に体験的に学習する
 - イ 事故防止及び緊急事態発生時の対応が円滑にできるようにする
 - ウ 教育相談体制の充実
 - (2) 基本的な生活習慣の確立
 - ア 基本的な生活習慣の確立のため保護者と連携に努める
 - イ 生徒自ら自己の健康管理の大切さにきづくよう理解・啓発に努める
 - (3) 規範意識の醸成と個々の生徒への支援体制の強化
 - ア 「規範意識の醸成」に努めるため、授業に規律の確立と遵守を徹底し、学びの習慣の大切さに気づかせていく
 - イ 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行を踏まえ、合理的配慮に関する理解を深めるとともに必要な生徒への支援に努める
 - ウ 教育相談の取組をさらに充実できるよう校内体制の在り方を検討する
- 2 エンパワメントスクールへの改編をもふまえた基礎学力の育成
 - (1) エンパワメントスクールへの改編を踏まえ「魅力ある授業」の創造と実践
 - ア 生徒状況を的確に把握し「わかる授業」を大切に、生徒が「できた。わかった。」が感じられる授業の研究を行う
 - イ 1年次にはホームルームクラスを少人数クラスとして展開を行い、引き続き授業の充実をはかる
 - (2) 公開授業の活用
 - ア 公開授業週間を活用し、教員相互の授業に関する話をする機会を増やす
 - イ 教員同士の授業見学の取り組みを推し進め、様々な授業手法について研鑽に努める。
 - (3) エンパワメントスクールへの改編に向け、モジュール授業やエンパワメントタイムの教材の研究を行う
 - ア 府のモジュール授業の教材の精査を行い、本校の状況に応じた教材の準備をすすめる。
 - イ 先駆的に取り組んでいる学校の見学を行い、教材研究に生かす
- 3 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実（「働くことの意義」を醸成し、自己の進路を主体的にできる力を育てる）
 - (1) 生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化
 - ア 体育祭や文化祭などを教員主導型から生徒会などと協力し生徒の自主的活動になるよう引き続き改善を図る
 - イ お掃除ボランティアやはつがの祭りへのSL運行などボランティア活動などの充実
 - ウ 部活動への参加を促進するため活動状況のホームページ掲載を促進する
 - (2) 3年間を見通したキャリア教育の推進
 - ア 職業観・勤労観を養い将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけを推進する
 - イ 教科学習や「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」、ホームルーム活動などあらゆる教育活動が生徒自身の自己発見の機会とする
 - (3) 社会人としてのコミュニケーション力の大切を気づかせる
 - ア 社会人として卒業後期待される力として、コミュニケーション力が必要であることに気づかせる
 - イ 進路希望調査を実施し、進路希望に応じた豊富で適切な情報を提供するとともに、適正検査等を利用し、自己の適性や能力を発見させるように努める
(進路未決定率 平成28年度 13% → 平成30年度 8%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 安全で安心な学校生活を送れる学校づくり	<p>(1) 安全で安心して生活できる場 人間関係の育成に努める ア 事故防止及び緊急事態発生時 イ 基本的なコミュニケーション</p> <p>(2) 基本的な生活習慣の確立 ア 基本的な生活習慣の確立 イ 自己の健康管理</p> <p>(3) 規範意識の醸成と個々の生徒への支援体制の強化 ア 合理的配慮に関する理解 イ 授業に規律の確立と遵守を徹底 ウ 教育相談の取組をさらに充実</p>	<p>(1) 学校が生徒相互にとって安全で安心して生活できる場と感ずることのできるように、人間関係の育成に努める ア・入学後、「総合的な学習の時間」、ホームルームの時間、「産業社会と人間」など時間を活用し、基本的なコミュニケーションの取り方を体験的に学習する。 イ・緊急事態発生時の連絡体制の確認と徹底 ・生徒の参加による安全衛生講習会の実施</p> <p>(2) 基本的な生活習慣の確立 ア・「おはようございます」「ありがとうございます」などの基本的なあいさつができるよう啓発する イ・健康診断で要受信者の受診率を向上させる</p> <p>(3) 規範意識の醸成と個々の生徒への支援体制の強化 ア・1年次団を中心に「授業定着」「規範意識の醸成」をめざして教職員と生徒の信頼関係を構築する ・生活指導に課題を抱える生徒に対しては、保護者懇談、家庭訪問などにより保護者と連携を深め、改善されるまで粘り強く指導する。 イ・合理的配慮に関する校内研修を実施するとともに、発達障がいをはじめとする障がいのあるすべての生徒についての理解を深める。 ウ・教育相談委員会とスクールカウンセラーの連携をさらに深める</p>	<p>(1) 安全で安心して生活できる場 ア・人間関係トレーニングなどを4時間以上の実施 イ・長期休業明けに救急連絡体制の確認3回 ・AED講習会の生徒参加40人(H28 30人)</p> <p>(2) 規範意識の醸成と個々の生徒への支援体制の強化 ア・懲戒件数の5%減少(H28 152件) ・のべ欠席日数の5%減少(H28 11565日) イ・合理的配慮等に関する校内研修2回実施 ウ・担任を交えたケース会議を年4回実施(H28 4回)</p> <p>(3) 基本的な生活習慣の確立 ア・年間150日の校門でのあいさつを実施(H28 160日) イ・受診率の5%向上(H28 4.85%で28人)</p>	
2 エンパワメントスクールへの改編をもふまえた基礎学力の育成	<p>(1) 「魅力ある授業」の創造と実践 ア 「できた。わかった。」が感じられる授業の研究を行う イ 少人数クラス</p> <p>(2) 公開授業の活用 ア 公開授業週間を活用 イ 教員同士の授業見学の取り組みを押し進め、様々な授業手法について研鑽を行う</p> <p>(3) 基礎基本を重視した教材を活用した授業づくり ア 利用可能な先駆的な教材活用を進める イ 先駆的取り組みしている学校の見学</p>	<p>(1) 「魅力ある授業」の創造と実践 ア・エンパワメントスクールへの移行に備え研究授業を行う イ・1年次のホームルームクラス数を9クラスに展開し、担任と生徒との信頼関係の構築に努め、生徒の生活背景を含めた状況を把握し授業担当者との連携を深める</p> <p>(2) 公開授業の活用 ア・公開授業週間を活用し、グループ別討論など教員相互が授業に関する意見交換を行う。 イ・授業見学を実施しICTの活用を研究する</p> <p>(3) 基礎基本を重視した教材を活用した授業づくり ア・エンパワメントスクールなどの先駆的な教材の本校での活用方法を検討し、新たな授業方法の実践方法を模索する イ・学校生活に課題を抱える生徒が多く学校の取組に学ぶため学校見学を実施する。</p>	<p>(1) 「魅力ある授業」の創造と実践 ア・研究授業5回実施 イ・1年次の中退率の5%減少(H28 45人)</p> <p>(2) 公開授業の活用 ア・生徒の授業満足度5%増 イ・視聴覚教材を活用した授業見学を2学期に実施</p> <p>(3) 基礎基本を重視した教材を活用した授業づくり ア・教材を活用した授業を行い、検討会の実施2回(新規) イ・学校見学を行う教員5人(H28 他府県2人)</p>	

<p>3 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実</p>	<p>(1) 生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化 ア 生徒の自主的活動 イ ボランティア活動の充実 ウ 部活動への参加</p> <p>(2) 3年間を見通したキャリア教育の推進 ア 職業観・勤労観 イ 生徒自身の自己発見の機会</p> <p>(3) 社会人としてのコミュニケーション力の大切を気づかせる ア コミュニケーション力 イ 進路アンケート</p>	<p>(1) 生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化 ア・体育祭・文化祭の生徒会役員の当日の運営や準備期間で、教員と協力しながら活躍の機会を増やす イ・授業を活かした地域貢献に取り組む ウ・生徒会と協力し、クラブ紹介や体験入部に取り組む</p> <p>(2) 3年間を見通したキャリア教育の推進 ア・地元企業と協力し、インターンシップに取り組む イ・外部講師によるガイダンスや講演を活用し自己の進路に対する啓発を行う ・資格取得への参加を促し、進路に向けた動機付けを行う</p> <p>(3) 社会人としてのコミュニケーション力の大切を気づかせる ア・場面に応じた適切な言葉選択できるよう粘り強く指導を行う。 イ・進路アンケートを実施する</p>	<p>(1) 生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化 ア・学校教育自己診断の項目5%増 イ・ミニSLの運行2回 ウ・クラブ加入率 20%に上昇させる。 (H28 18%)</p> <p>(2) 3年間を見通したキャリア教育の推進 ア・インターンシップ参加者3人 (H28 1人) イ・学校斡旋による就職希望者5%増 ウ・資格取得者10%増 (H28 11人)</p> <p>(3) 社会人としてのコミュニケーション力の大切を気づかせる ア・3年生の就職面接練習参加者1割増 (H28 74人)</p>
---------------------------------	---	--	---